

神道夢想心流 日本杖道会会報

第24号

平成20年1月8日

編集・発行

日本杖道会



日本杖道会

会長 神之田 常盛

役員 一同

年頭によせて

新春を壽ぎ謹んでお慶び申し上げます。

さわやかな新春を迎え、喜びと実りある目標に向って躍進しましょう。

年々歳々、時流は変わりありませんが、元旦を起点として天地自然の

動きに対応し、武の道に向って今年も明治神宮奉納武道会でスタートし

ました。

どうぞ今年も斯道発展のため一層の

ご支援ご教導を賜りますようお願い申し上げます。

会員の皆様の益々のご健勝ご多幸を

祈念申し上げ、新年のご挨拶とします。



杖道の道

神之田 常盛

杖道は「転ばぬ先の杖」をモットーにされている。

人間生活の営みは幸せの追求にあると言われる。だれしも、苦しかったこと、辛かったこと、楽しかったこと、悩んだこと等思い出はつきないものがある。これらの数多くの成功、失敗等の教訓を学び体得し、過ぎし日を振り返ってみると「幸せ」の一言につきるものがある。その中でも一番難しいことは健康と云うことにつきる。

現在のように「日本は平和な良い国」。この世の中で欲しいものは何んでも手に入る、恵まれた社会は実に素晴らしいと思うが、それに健康というものがプラスされれば何んの不服もないところである。然し健康は、恵まれた世の中によつてつくられるものではなく、己の努力のみによつてつくり得るものと言われている。

ところで、その健やかな状態を保つには、常日頃いかにあるべきか、身体ばかりの健康法ではなく、心的なことも考慮しなければならぬ。

例えば心の悩みから胃病をわずらい、ひどくなる。心的にノイローゼになったりする。また、心が高ぶって思うようにならないと異状な現象や、心理的狀態におちいる等、私達が意識するか、しないかにかかわらず心と身体は互に影響し合っているものであり、率直に言って人造り、身体造りには武道の及ぼす影響は大きいものがあると思う。

申すまでもなく武道の目的は心を練り技を磨き、身体を鍛え、人間形成に向けての大きな目標があり、この心・技・体の一致するところに常に調和が保たれ、私共が求めている道があり、処生の大道であると信ずるのである。

元来、武道は戦技として日本に生れ、日本に育ち、日本人が継承し、積年に至る時代の推移と進歩とにあいまつて昇華し、近年、人間修行の道として敵を攻め、敵に勝つよりも己に勝つと云う精神の修行に移行し、今日では日常生活に定着し、日常行動の規範となり心となつて、その影響力は極めて大きく評価されている。

宮本武蔵は五輪の書に「鍛者千日、練者萬日」と記し、生涯剣一筋に精進した心構えを端的に表している。即ち、千日をつまり三年を鍛と云い、万日を三十年とし練と言ひ、このような自覚をもつて始めて「鍛練」の域に達すると記されている。

名人名工と云われる人達をみても、その道一筋に生き、然も長い年月に亘つて厳しい試練に耐え、その結果自分の生涯を築き、その道を極めるに至つたもので、一朝一夕にして成し得たものではなく、まさに「武の道は遠くて深い心技の鍛練に在り」で武道には入門はあつても卒業がない、則ち終着駅と云うものがなく、これは終生継続修行することを意味する、人間形成の処世道と言えるものである。

平成十九年度 下半期の主な行事を終えて

平成十九年度は例年のごとく明治神宮奉納杖道大会が始まって、筑波山神社の奉納杖道大会で幕を閉じた。

下半期の主な行事は左記の通り。

- 一、7月14日
第19回東京都杖道大会
参加選手参百名
- 二、8月10日～17日
米国首都圏杖道会並びに五大湖杖道会の招きにより杖道研修会
- 三、9月2日～4日
秋田県鹿角市体育館にて居合杖道研修会、夢想館道場創立35周年記念式典、初代浅利成和館長、二代浅利芳明館長の法要に参加
- 四、10月8日
第34回全日本杖道大会
福岡市立体育館 参加選手五百名
- 五、10月13～14日
東北居合道高段者会、居合杖道研修会
- 六、10月20日
第42回全日本居合道大会
岡山市立もも太郎体育館
- 七、10月21日
杖道五段以下審査会
- 八、11月3日～7日
杖道合宿研修会
鹿島神社殿 参加六〇名
- 九、11月22日
関東甲信越居合道大会 一千名参加
- 十、12月2日
筑波山神社奉納杖道
密弘寺不動堂奉納 他

訪米杖道使節報告

去る8月11日から19日の間、神之田常盛日本杖道会会長を団長とする日本杖道会の杖道使節六名が七年振りに米国を訪問し、現地の杖道仲間と交歓稽古を行った。

今回の訪米は、昨年11月に鹿島で当会主催の第二十回武道演武大会開催の折、米国からの参加者の「来年はぜひとも米国で研修会を開催して欲しい」との多数の要請に応えたもの。本年は武道の海外普及の先駆者であり、神之田会長の盟友でもあったドン・ドレーガー先生の没後二十五周年にあたり、ぜひこの機会に再度の墓参を果たしたいとの会長以下会員の想いを実現したことも特記したい。以下、その模様を順を追って報告する。

▽日本杖道会訪米使節

神之田常盛 田内 勻 佐藤 暢 渡辺武彦 藤本敏子 真野英明 (記録)

▽米国首都圏杖道会及び五大湖杖道会について

首都圏杖道会
会長はダン・ピアソン氏。2002年創立。ワシントンDC周辺を拠点として活動。現会員数17名。

▽五大湖杖道会

会長はリッチ・フライマン氏。1995年創立。ウイスコンシン州ミルウォーキーを拠点として活動。現会員数15名。

▽故ドン・ドレーガー先生について

1922年4月15日米国ウイスコンシン州生まれ、本名は Donald F. Dreager。戦後、日本武道を海外に紹介した草分け的存在、米国杖道連盟の創設者であり、神道夢想流杖道の免許を清水隆次師範より受けた最初の外国人である。

七歳のときに柔術を習ったのが、杖道に入ったきっかけであり、戦時中、海兵隊の中佐として参加した硫黄島の戦いで日本兵の強靱さを目の当たりにし感嘆、杖道の研究を生涯の使命と感ずるようになる。

昭和二十年(1945年)に来日以降幾度も長

期に渡って滞在し、神道夢想流杖道をはじめ、講道館柔道、剣道、松涛館流空手道、香取神道流ほか幅広く杖道を研鑽。

昭和四十五年(1970年)には杖道普及の親善使節として清水師範、神之田師範とともに二ヶ月間、真夏の米国を横断しながら各地での演武および指導を、通訳を兼ねてマネージメントした。

昭和四十七年(1972年)には、黒田市師範を加えたメンバーでマレーシアを訪問、その後も昭和五十五年(1980年)に欧州各国を廻る等、精力的に活動した。

1982年10月20日、生まれ故郷ウイスコンシン州ミルウォーキー市の Wood National Hospital で逝去、享年六十歳。

▽日程

滞在の前半は、首都ワシントン市近郊のポトマック河畔に位置するアレクサンドリア市。植民地時代にはポストンに次ぐ港として栄えた「ジョージ・ワシントンの故郷」とも呼ばれる建国当時の面影を残す落ち着いた佇まいの街である。ここを本拠地として活動する首都圏杖道会並びにウイスコンシン州ミルウォーキーに本部を置く五大湖杖道会が共催する「国際親善杖道合宿研修会」に参

加した、暑い盛りにも拘わらず、両会以外からもテキサスやニューメキシコ州から飛行機で数時間かけて参加した者もいた。

・8月11日(土)

成田空港第1ターミナル集合。全日空NH002便にてワシントンへ。ワシントン・ダレス国際空港到着。首都圏杖道会のダン・ピアソン会長以下会員の出迎えを受ける。快晴で暑かったが、湿度は東京より低くて多少しのぎやすい。車で移動、湖畔のイタリアン・レストランにて昼食後、アレクサンドリア市中心街のホテルに到着。

・8月12日(日)



